



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第51巻第
6号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第51巻第6号). 泌尿器科紀要 2005, 51(6): 438-438

ISSUE DATE:

2005-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/113616>

RIGHT:

3. 論文の採否：論文の採否は Editorial board のメンバーによる査読審査の結果に従い決定される。ただし、シンポジウムなどの記録や治験論文については編集部で採否を決定する。
4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 採択論文：論文が採択された場合、原稿を3.5インチフロッピーディスク・MO ディスク・CD-R・CD-RW のいずれかに保存し、編集部へ送付する。ディスクには論文受付番号・筆頭著者名・機種名・ソフトウェアとそのバージョンを明記する。Windows の場合は MS-Word・一太郎、また Macintosh の場合は EG-Word・MS-Word とし、特に Macintosh においては MS-DOS テキストファイルに保存して提出すること。
6. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
7. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,775円(税込)、英文は6,825円(税込)、超過頁は1頁につき7,350円(税込)、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は31,500円(税込)、6頁以上は1頁毎に10,500円(税込)を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
8. 別刷：30部までは無料とし、それを超える部数については実費負担とする。著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer・PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

San Antonio での AUA 参加中に、日本の癌治療分野の重鎮であった T 教授自殺の計報がインターネットニュースで飛び込んできた。T 教授は北海道民間病院への医師派遣において現金を受け取ったとして受託収賄罪容疑で起訴されていた。

国家公務員(当時)が医師派遣の見返りに多額の現金を受け取るなどということは、もちろんあってはならないことであるし、罪に問われてもしかたないと思う。しかし、そのいっぽうで医師不足に悩む地方病院が大学に医師派遣を要請するしかないという現実にも目をむけるべきではないか。大都市にある大学医学部ではあまり実感出来ないかもしれないが、地元の地域医療を支えるという責任を負った地方の大学では切実な問題であろう。僻地の病院へは誰も行きたがらないし、特に若手医師の教育という面でもサポートしにくい現実がある。サポート出来ないどころか、大学自体の人手不足で「医師の引き上げ」すら始まっている。

来年は卒後臨床研修必修化の1年生が専門医を目指して全国の病院に散らばっていく。そのベクトルの方向性はまだ見えてこないし、それが地域医療に及ぼす影響も予想出来ない。しかし、現在の制度不備に目をやらず、責任を T 教授一人に押しつけただけで終わってはならない。そろそろお中元の季節である。教室あてに送られてくるジュースやビールの箱を前に、どう扱おうかと悩む自分の姿が目につく。

(小川 修)